

令和3年11月24日

瀬戸内市議会議長

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和3年11月23日(火)
研修会名	保育研究所 オンラインセミナー2021年度 保育の今と明日への展望ーコロナ禍の実態から考える 「子育て家庭・保育現場の現状と保育の未来」 報告1 コロナ禍のもとでの子育ての状況 ー貧困・虐待問題を軸に保育の課題を考える 小西 祐馬 氏(長崎大学) 報告2 どう変わる・どう変える? ポストコロナ時代の保育と子育て 中西 新太郎 氏(横浜市立大学名誉教授)
開催場所	オンライン
研修内容	「子育て家庭・保育現場の現状と保育の未来」 報告1 コロナ禍のもとでの子育ての状況 ー貧困・虐待問題を軸に保育の課題を考える 小西 祐馬 氏(長崎大学) ○問題意識の確認 ・コロナ禍により、子どもの貧困・虐待の拡大が危惧されているが、これは日本の家族制度・社会制度にあらかじめ埋め込まれていた。 ・コロナ禍は、これまで何とかギリギリで成り立ってきた人々の生活までも危機に陥れている。日本社会の本当の姿が露わになった。 ・背景には、①家族責任=自己責任の考え方②能力主義による序列化・差別化③ジェンダー不平等がある。

・半貧困・非暴力の政策（公助）を社会の責任で進め、個人の尊厳と平等を確保していかなければならない。

○貧困の状況

- ・子どもの貧困 7人に1人の状況
- ・貧困率の年次推移の状況
- ・世界の比較の貧困状況
- ・ひとり親世帯の貧困状況

○コロナが子どもに与える影響

- ・最貧困層の子どもへの影響が最も深刻
- ・インターネット接続のある充実した家庭学習環境に身を置ける可能性が極めて低い
- ・監視下に置かれないままオンラインの利用が増えることで、性的搾取やネットいじめの問題が拡大する
- ・栄養不良・虐待・家庭内暴力のリスクが高まっている
- ・ひとり親家庭の子どもが困窮する

→子どもの貧困に対処する保護者の雇用を支援する政策が必要

○政府の対策

- ・厚生労働省のホームページで「生活保護」についての周知を行ったことは画期的

○長崎の実態報告

報告2 どう変わる・どう変える？

ポストコロナ時代の保育と子育て

中西 新太郎 氏（横浜市立大学名誉教授）

- 1, コロナ禍は日本の社会をどのように変化させたか
 - ・経済的・社会的格差が広がり、貧困に苦しむ人が激増した
 - ・社会を実際に支えている仕組み（インフラ）の貧弱さが浮き彫りに
 - ・生活から「社会（お互いのつながり）」が失われ、「孤立する危険が増えている
 - ・大人よりも子ども・若者が社会を奪われることによる困難が深刻
- 2, コロナ禍をきっかけにすすむ危険な社会改造計画
 - ・政府は「デジタル化を進めないと社会が衰退する」といっている危険性
 - ・デジタル化で保育現場での厳しさは軽減されない
 - ・文科省「新時代の学びを支える先端技術活用推進

	<p>方策」を進めている。</p> <p>3, コロナ禍の経験から私たちは何を学べるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新自由主義の考え方に基づく社会のしくみには矛盾があり、限界がある。 ・仕事も暮らしもあらゆる領域も市場メカニズムに任せて組み立てようとする。 ・市場メカニズムを使わない公共の領域をできる限り削減する。 ・新自由主義の考え方の方針を実現するため権力を使って上から強力に押し付ける。 ・新自由主義に基づく社会の作り方が実際には社会を壊し、社会的結びつきをばらばらにしてしまう。 ・社会のつながりを保つのに欠かせない「ケア」のかかわり ・「ケア」=新しい認識=お互いに行う配慮や配慮のしくみ ・ケアのつながりは社会を変える動力源 <p>4, 私たちの望む保育の未来をどう実現するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの成長を支える「社会」の具体的な姿をつくり広げる。 ・保育職員の働き方が「普通」にならないかぎり、保育の質はよくなる。
<p>所感</p>	<p>○コロナ禍における子育て家庭の状況の深刻さの報告の中で、ひとり親世帯の深刻さに対して、行政として、把握とその状況に対しての支援策をもっと打つ必要がある。</p> <p>○「空腹を我慢している家庭」「虐待などで不安定な家庭」「就学援助を知らない家庭」「生活保護も知らない家庭」などの報告もあり、困った人に寄り添う行政の在り方を見直す必要がある。</p> <p>○わが市においては社会福祉協議会や福祉課を中心に生活困窮者へ支援をしている。きめ細かい把握とわかりやすい情報の出し方をさらに求める必要がある。</p> <p>○保育状況の改善も政府が出している処遇改善の規模ではなく抜本的な支援策・充実策を出していく必要がある。</p> <p>今回のオンラインセミナーで、コロナ禍における子育ての深刻さ、保育のやりづらさ、保育環境の改善や保育士雇用状況の充実など必要な施策が多方面に必要であることを改めて気づくことができた。何事も財源確保が必要だが、現状を伝え、その改善を求めていくことが議会の仕事の一つであり、大切な役割だと感じた。</p>

